

### 3 学年 人文自然 3 3 単位 コミュニケーション英語Ⅲ 日本語訳例①

各Lessonの問題を解いていく中で、英文の意味が容易に理解できた人もいるし、そうでない人もいると思うので、日本語の訳例を提示します。参考にしてください。

(活用例)

1. 数回音読してみよう → 内容が分かると、音読もしやすくなる。
2. 英文和訳にチャレンジ → 任意の一文でも、全文にチャレンジしてもよい。

#### <Lesson 1>

##### (A) 変わりゆく人口ピラミッド

(図の)1950年の人口ピラミッドは、日本が底の広い形が特徴的な標準形のピラミッドだったことを示している。しかし、ピラミッドの形は出生率と死亡率がともに減少するにつれて変化した。2011年においては、高齢者(65歳以上)の人口が2,975万人で、全人口の23.3%を占めたが、これは人数の点でも割合の点でも過去最高だった。この(全)人口における高齢者の割合は世界一高い。日本の人口は西ヨーロッパ諸国やアメリカの人口よりもずっと速いペースで高年齢化している。

##### (B) カラスと水差し

のどの渇いたカラスが水差しを見つけたが、その中には水がほんの少ししか入っていなかった[直訳:水がほんの少ししか入っていない水差しを見つけた]。カラスはどうかして水を飲もうとあれこれやってみたが[直訳:彼は水に届こうと多くの異なる方法を試したが]、どれもうまくいかなかった。それから、新しい考えがひらめいた。カラスはまわりを探していくつか小石を見つけ、それをひとつずつ水差しの中に落としていった。水差しの中の水位は徐々に上がり、ついにカラスは水を飲むことができた[直訳:カラスは自分の飲み物を得ることができた]。(イソップ寓話)

#### <Lesson 2>

(A) 人が美術館や博物館を訪れる理由はさまざまです。初めての[直訳:新しい]場所に旅行したときに美術館や博物館に足を運びます。なぜなら、その文化について多くのことを学べる場所だからです[直訳:美術館や博物館は…について多くのことを彼らに教えるからだ]。また、楽しむために美術館や博物館に行くこともあります。大概の人はまた珍しい展示品のある美術館や博物館に喜んで行きます。美術館や博物館で退屈することはありません[直訳:退屈するのは不可能だ]。

(B) 人間はミツバチにずっと関心を持ってきました。この関心はミツバチの作るハチミツから始まったのかもしれませんが。実際、考古学者たちは人類が何千年も前からハチミツを食べている証拠を発見しています。より最近のことでは、ミツバチがハチミツを作る方法に関心が寄せられました[直訳:もっと最近の過去では、人々は…に興味を持った]。人々はミツバチを称賛しました。ミツバチはいつでも一生懸命に働いているように見えたからです。いくつかの言語では、ミツバチのように働く人についてのことわざも作り出されています。例えば、英語には「ミツバチのように忙しい」という表現があります。現在、科学者たちにはミツバチに関心を寄せる新たな理由ができました。ミツバチはお互いにコミュニケーションをとることができることが発見されたのです[直訳:…ということを彼らは発見した]。これについていくつかの驚くべき事実が研究によって明らかにされましたが、まだ多くの謎があります。

## <Lesson 3>

### ストレスの管理

人生で成功するためにはストレスを管理しなくてはなりません。過度のストレスは睡眠障害を引き起こしかねません。また、健康状態を悪化させることもあり、仕事や勉強に悪影響を与えることもあります。ここでストレスの対処法についていくつかアドバイスを差し上げましょう。

身体的な運動はストレスを取り除く優れた方法です。散歩、水泳、サイクリングといった活動を行うと、ストレスと戦う化学物質が体内で生産されます。運動した後に気分がよいのはこのためです。

ストレスをコントロールするもう一つの方法はタイムスケジュール(時間割り)の管理を行うことです[直訳:タイムスケジュールの管理を行うことはストレスをコントロールするもう一つの方法だ]。日曜日ごとに翌週の予定を立てるのはよい考えです。重要なこと、楽しみなこと、どちらのための時間も取っておきましょう。

感情のバランスをとることも大事です。自分自身の問題に集中せず、問題を抱えている友人を助けましょう。人生の恵まれている点をリストアップするのも有益です。完全な人間などいないということをいつも忘れず、自分を責めすぎないようにしましょう。

適度なストレスは役立つこともありますが、過度のストレスは危険になりえます。ストレスの管理は現代社会においてとても重要な生活技能(ライフスキル)です。

## <Lesson 4>

### バタフライ効果

バタフライ効果とは、あるシステムにおける小さな変化がシステム全体に大きな変化をもたらすことがあるという考え方を示します。その命名の由来は、一匹のチョウの羽ばたきが別の地域の天候に影響を与えるかもしれないという考えから来ています。

その一例としてよく知られているのが、交通渋滞です。ときどき、ラッシュアワーでもないのに渋滞に巻き込まれることがあるでしょう。先のほうで事故があったわけでもなさそうです。この謎をバタフライ効果で説明できます。1人のドライバーが何らかの理由でブレーキを踏んだとします。すると後ろの車のドライバーも事故を避けるためにブレーキを踏まなくてはなりません。これが次々に続くと、1人のドライバーがブレーキを踏むたびに、その後ろのドライバーはもっと急にブレーキを踏まなくてはならなくなります。この連鎖反応は後ろへと波及し、交通を完全にストップさせることになります。

バタフライ効果は、小さな選択が重要であることを私たちに改めて考えさせます。私たちの決断は、今は重要ではないように見えたとしても、大きな影響が後で出てくるかもしれません。あるいは、歴史の流れさえ変えてしまうかもしれません。あなたがすることすべてに意味があるのです。